

NO. 31 (通算31)

絵・文・題字
渋谷 一夫

富士山の謎 (1)
富士山と赤土

「ふじの山」があった。あたまを雲の上にだし、四方の山を見おろして、かみなりさまを下にきく、ふじは日本一の山。巖谷小波の作詞だ。昔から崇敬されていたのだ。

「ふじの山」があった。あたまを雲の上にだし、四方の山を見おろして、かみなりさまを下にきく、ふじは日本一の山。巖谷小波の作詞だ。昔から崇敬されていたのだ。

また、山岳信仰の対象でもある。祭神は「木花開耶姫」(このはなさくやひめ)、女神だ。仏教の上では「浅間大菩薩」(せんげんだいぼさつ)と称し霊峰なのだ。昔から日本人の心の象徴だったと言える。

この赤土が、霜柱や春先地から湧き出る湧水と、どういう関係にあるのかを、次回から探求してみたい。(註)読み方

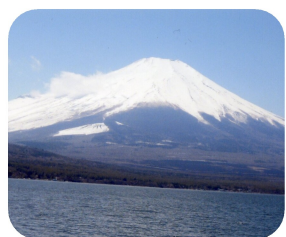
新年明けましておめでとう。「富士見」の名をいただいた富士山にもおめでとうと言いたい。
 天気が良いれば、西南の彼方に、秀麗な姿が望みできるはずだ。
 だが、その市名に関わる富士山も、山体はまだまだ謎だらけだ。これから、その謎解きに挑戦してみたい。

日本一の山「富士」

富士山は、多くの日本人から愛され、日本の象徴になっている。

3776m。他の山々を寄せ付けない圧倒的な高さだ。2位の北岳は3192m、遥に及ばない。高さだけではなく、姿・形も美しい。東西南北どこから見ても、円錐形の秀麗な独立峰だ。山頂付近は急斜面、山麓は広い裾野をもった成層火山だ。実に美しい山だ。

火山灰が作る赤土



その富士山は、数十万年前から噴火に噴火を重ね、溶岩や火山れき・火山灰などを大量に噴出してきた。その火山灰が偏西風に乗って、約100kmも離れた関東地方にも降り注いだのだ。その後も現在に至るまで、間欠的に度々大噴火が起こり、その度に富士見市周辺にも、大量の火山灰が降り注いだのだ。その積もり積もった火山灰は、厚さ5mから8mにも達している。それが、現在ある赤土なのだ。

この赤土が、霜柱や春先地から湧き出る湧水と、どういう関係にあるのかを、次回から探求してみたい。(註)読み方

高台に住むあるご家族の会話。
 「あれ、霜柱だ」
 「何故、こんな所に」
 「赤土だからだよ」
 鶴瀬・水谷地区の高台の土壌はすべて赤土だ。褐色をした土で、昔から霜柱がよくでき「霜柱の宝庫」みた

昔の文部省唱歌にも、

一富士 二鷹 三茄子 という諺がある。一番縁起の良い初夢は「富士」だという。皆さん、どんな初夢を見ましたか。

その後も現在に至るまで、間欠的に度々大噴火が起こり、その度に富士見市周辺にも、大量の火山灰が降り注いだのだ。その積もり積もった火山灰は、厚さ5mから8mにも達している。それが、現在ある赤土なのだ。

